

発 刊 に 寄 せ て

鹿児島教育事務所長 谷川 敬

今年度も、地区内の小・中・義務教育学校の先生方から、日々の計画的・継続的な研究・実践に基づいた教育論文・教育実践記録を多数お寄せいただき、ここに、鹿児島地区教育論文・教育実践記録集「波動」第34号を発刊できますことを心から感謝申し上げます。

鹿児島地区の教育論文・教育実践記録集は、押し寄せる波とその様々な波に対応する動きという意味を込め「波動」と名付けられてから、今年で34年目を迎えます。この間、変わることのない教育の本質を捉えた理論や最新の動向及び時代の要請等を踏まえたものなど、多くの優れた実践を紹介し、本地区教育の振興と充実に寄与してまいりました。

2021年1月に、中央教育審議会から『令和の「日本型学校教育」の構築を目指して―すべての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの実現―（答申）』が答申されました。2020年代を通じて実現を目指す学校教育を「令和の日本型学校教育」とし、その姿を「全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学び」としたもので、ここでは、ICTの活用と少人数によるきめ細かな指導体制の整備により、「個に応じた指導」を学習者の視点から整理した「個別最適な学び」と、これまでも「日本型学校教育」において重視されてきた、「協働的な学び」とを一体的に充実することを目指しているものです。さらに、これを踏まえ、各学校段階における児童生徒の学びの姿や教職員の姿、それを支える環境について、「こうあってほしい」という願いを込め、学習指導要領に基づいて、一人一人の子供を主語にする学校教育の目指すべき姿が具体的に描かれています。

今回応募いただいた教育論文・教育実践記録の作品数は293点にもなり、その中でも「個別最適な学びと、協働的な学び」や、これからの学校教育を支える基盤的なツールとしての「ICTの活用」を研究・実践された先生方の作品が数多く見られました。急激に変化する時代の中で児童生徒が育むべき資質・能力がどんなものであるか、学校に求められていることは何か、様々な教育課題に対応されている先生方の思いが伝わってくるものばかりでした。

特に、掲載された10点の論文・実践事例は、学習指導要領の方針を踏まえた今後の各学校・先生方の研究や教育実践、教育課題解決のために多くの示唆を与えてくれるものです。掲載された内容や方法を積極的に活用して指導体制の充実や指導方法の改善に努め、各学校における研究・実践の継続・深化を図っていただきたいと思います。

また、今年度から、この「波動」をCDによるデータ配布及び事務所ホームページへの掲載をすることになりました。このことにより、先生方一人一人の取組が、より多くの方に広がって、地区全体に教育の大きな「波動」となっていくことを期待しております。

また、地区研究協力校研究実践資料も掲載しています。思考力、判断力、表現力等を高める指導法や主体的・対話的で深い学びの実現に向けた取組、極小規模校における指導法改善など、へき地・小規模校を含めた本地区のあらゆる教育活動の場で生かすことができる実践であり、教育資料として参考にしていただきたいと思います。

最後になりましたが、教育論文・教育実践記録集を発刊するに当たり、御協力・御支援いただきました鹿児島地区教育委員会連絡協議会、各市村教育委員会をはじめ、応募された皆様に厚く御礼申し上げますとともに、更なる研究・実践の継続をお願い申し上げ、発刊のあいさつといたします。